

《1》2002年6月14日 国および大阪府・市に要望書

平成14年6月14日

財務大臣 塩川正十郎様
文化庁長官 河合隼雄様
大阪府知事 太田房江様
大阪府教育委員会教育長 竹内 脩様
大阪市長 磯村隆文様
大阪市教育委員会教育長 大西史朗様

旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会
代表 大阪電気通信大学教授 小田康徳(印)
大手前大学教授 川口宏海(印)
佛教大学教授 原田敬一(印)
関西大学非常勤講師 横山篤夫(印)

(連絡先)

〒572-8530 寝屋川市初町18-8 大阪電気通信大
学人間科学研究センター 小田康徳
気付

電話 072-824-1131 (代)

要 望 書

われわれは、下記の事項を貴職が実現されるよう要望いたします。

記

- 1、旧真田山陸軍墓地所在の墓碑・納骨堂を保存修復していただきたい。
 - (a) 亀裂・剥離が進行し、崩落の恐れが強い墓碑に対する保存措置を緊急に実施すること。
 - (b) 墓碑の傷みを悉皆調査し、保存措置のための計画を策定し、保存技術を追求すること。
 - (c) 納骨堂（木造、昭和16年建築と推定）を修復すること。
- 2、旧真田山陸軍墓地を史跡・文化財として指定していただきたい。

以 上

以下、上記の理由を説明いたします。

旧真田山陸軍墓地は、大阪市天王寺区に 4,569 坪(15,077 m²) の広大な敷地を有し、多くの木々に囲まれて都心とは思えないほど静かなたたずまいを見せています。

この墓地は、明治 4 年 (1871) 当時の兵部省が設置したもので、戦前内地に 80 以上つくられた陸軍墓地のうち最古の歴史をもち、5,299 基以上の墓石群と 4 万 3 千余といわれる遺骨を納めた納骨堂からなりたっています。この墓地には明治 6 年(1873)の徴兵令施行以前、すなわち明治 4 年から昭和 20 年 (1945) の太平洋戦争終結直後までの間、戦時および平時に亡くなった将校・下士官・兵卒・軍役夫 (職工を含む) など整然と区画された区域に、規則に従ってそれぞれの墓が立ち並び、訪れる人々に肅然とした気持ちを与えるとともに、戦前日本の軍国体制のありようを考えさせてくれています。とりわけ、個々の墓石に刻まれた文字を読み、墓石の形状と配置などを考え、墓地全体のたたずまいに思いを寄せるとき、その思いはひとしおです。

旧真田山陸軍墓地は、近代における軍国日本の歴史と文化を現在および将来に伝える歴史的な遺跡となっているのであります。また、その落ち着いた広い空間が周辺の神社や公園などとあいまって市民に憩いの場を与える公共的な役割も果たしています。戦後 60 年近くなった今日、このように戦前の姿をよく残している旧陸軍墓地は、全国的に見ても、もうほとんど存在しておらず、現在では日本最大の規模をもつものとなっています。

ところが、その墓石のほとんどは材質的に脆い和泉砂岩でできており、今や長い年月の経過とともに崩壊してしまったり、そうでなくても亀裂がいたるところに入り、剥離・崩壊の危険にさらされているものが増えています。風化も進んでいます。失われた墓碑の文字とともに、墓の主も、墓地とそれに関する多くの歴史もむなしく消え去ろうとしているのです。また、昭和 16 年 (1941) に建築されたと推定される納骨堂も、木造のため傷みが目立ってきています。この墓地の景観と墓碑・納骨堂等を保存し整備していくことは、まさしく焦眉の急となっているのであります。

われわれは、各地における旧陸軍墓地のあり方、そしてその現在における旧状破壊の状況を知るにつけても、その中におけるこの旧真田山陸軍墓地の存在の重要性を強く感じます。旧真田山陸軍墓地を保存し、また史跡・文化財として指定されることを心底から望むのであります。

われわれは、旧陸軍墓地の本当の姿、その歴史的な意義、また、その研究から見えてくる戦前日本の姿などについてもっと地道に、かつ真剣に検討していかねばならないと考えています。行政・市民・研究者が一体となって行うその努力こそが、この遺跡の価値を高めていくものだとも思っています。われわれの意のあるところを汲み取り、実現されることを強く要望する次第であります。